

# 絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2025-秋

No.109

●表紙の画および題字は、  
故・平山郁夫画伯のご厚意により  
ご提供いただいているものです。



桂離宮 2004年



#### 【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

# 空のシルクロード

(公財)文化財保護・芸術研究助成財団の活動  
とりわけ地震などの被害にあった貴重な文化財の  
補修への助成をはじめとした活動は素晴らしい、  
財団の存在意義を示すもので改めて敬意を評した  
と思います。

さて、巻頭言を書くにあたって、まず頭に浮か  
んだのは、私の前にANAホールディングスの会長  
を務めた大橋洋治が常に口にしていた「空のシル  
クロード」という言葉です。大橋は、日本から中国、  
中央アジアを経て、中東、ヨーロッパへと「ANA  
で空のシルクロード」を作る、と壮大な夢を語っ  
ていました。

二〇一〇年代には叶わなかったこの夢は、  
二〇二五年二月十二日、ついに羽田からイスタン  
ブールへの直行便就航という形で一部実現するこ  
とができました。当初、二〇二〇年の就航を予定  
していましたが、当時はANAホールディング  
スの会長でしたが、新型コロナウイルスの影響に  
より延期を余儀なくされ、ようやく就航にこぎつ  
けたもので感慨深いものがあります。余談ですが、  
ウクライナ情勢を踏まえて、現在、ヨーロッパから  
日本に向かうANA便は南回りルートで、トルコ  
や中央アジア、中国の上空を飛行しており、まさ  
に「空のシルクロード」を飛んでいると言えるか  
もしれません。

シルクロードは、商品を運ぶ交易路であったと  
同時に、文化、宗教、技術、そして人々の交流を  
促し、世界の歴史に多大な影響を与えた道である  
ことは言うまでもありません。その終着点の一つ  
であるイスタンブールは、「東西文化の交差点」と  
して広く知られ、豊かな歴史と多様な文化が息づ  
く魅力的な都市です。ANAの翼が東京とイスタ



ンブールを結ぶことで、人々の往来が活発になり、  
文化交流も促進され、そこから新たな価値が生ま  
れることに貢献できれば幸いです。

ANAには、先人たちが残し、現在まで受け継  
がれてきたDNAとも言える言葉がいくつもあり  
ます。その中から、初代社長の美土路昌一の言葉  
を二つ紹介します。一つは「現在窮乏、将来有望」  
です。これは、創業間もない頃の困難な状況を乗  
り越えるために社員たちを鼓舞した言葉であり、  
どんなに厳しい苦境に遭遇しても、明るい未来を  
信じて努力すれば、報われる時が来るというもの  
で、精神的な支えとなりました(何度も何度も窮  
状に見舞われるには往生しましたが)。もう一つ  
は「和協」。こちらは「和して同ぜず」の気概を持  
ち、より良い結論が出るまで徹底的に議論を重ね、  
一度決断が下されたら、目的達成のために一致協  
力して実行することを説いた言葉です。

これら二つの言葉は役員会議室の壁に掛けられ  
ており、「和協」の文字は当財団とも関係が深い  
平山郁夫先生が揮毫されたものです。ご存知の通  
り平山先生は、生前、何度もシルクロードを訪れ、  
その壮大な歴史と文化を描いた名作を数多く残さ  
れています。世界各地で危機に瀕している文化財  
の保護活動にも生涯をかけて取り組まれ、「文化財  
赤十字」と称されました。まさにこの財団の活動  
に力を与えていたのだと思います。この言葉を揮  
毫いただいたのもだと思います。  
ANAグループもESG経営を推進しており、  
文化財保護活動の例を挙げれば、上智大学のアン  
コール・ワット遺跡保存修復活動を支援し、社員  
による修復のボランティア活動等を行っています。

## 筆者略歴

一九七四年三月九州大学経済学部卒業、同年四月全日本  
空輸株式会社入社。二〇〇九年四月代表取締役社長に就  
任。ホールディング体制への移行により、二〇二三年以降  
ANAホールディングス株式会社代表取締役社長、会長  
を務めた後、二〇二三年四月より同社の特別顧問として現  
在に至る。その他、東京都歴史文化財団理事、東京都写真  
美術館館長等も務めている。



ANAホールディングス(株)  
特別顧問  
財団理事  
**伊東信一郎**  
(いとうしんいちろう)

カンボジアでの活動には私も参加し、気持ちのい  
い汗を流したことを覚えています。最近では、昨  
年東京国立博物館で開催された特別展「はにわ」で、  
シアトルから「埴輪・掛甲の武人」の輸送に協力す  
る等、航空輸送を通じて文化交流活動を微力なが  
ら支援しています。  
また、現在私が館長を務めている東京都写真美  
術館は、日本で唯一の写真・映像の総合美術館と  
して、写真や映像の収集、展示、保存、修復、調  
査、研究等、多岐にわたる活動に取り組んでいます。  
優れた写真や映像は、単なる記録を超えて、時間  
や記憶、感情、想いを表現し、見る者の心を動か  
し感動させる力を持っていると改めて思います。  
今年で開館三〇周年を迎え、これからは国内はも  
とより世界に向けて優れた写真・映像文化を創造・  
発信するとともに、親しまれる文化施設としてさら  
に存在感を発揮できるよう努力していきたいと思  
っています。  
最後に、今後も(公財)文化財保護・芸術研究  
助成財団のさらなる発展に微力ながら貢献できれ  
ばと思います。

## 日本のユネスコ世界遺産13

# さど きんざん 佐渡島の金山

(マルコ・ポーロの夢)



(上) 金脈を求めて縦横に坑道が掘られていたことを示す絵図  
(下) かつての金山の採掘現場の状況を人形を用いて再現したもの

ユネスコ世界遺産シリーズ

撮影・仙波志郎

イタリアの旅行家マルコ・ポーロ  
(一二五四〜一二三四)は、その著書「東方  
見聞録」の中で日本を黄金の国「ジバング」  
として記している。彼が日本に来たことは  
なく、これは厚遇を受けていた中国の「元」  
の宮廷で耳にした話であろう。

しかし、その記述は、あながち誇張とも  
言えない面がある。かつて日本は世界でも  
有数の金の生産量を誇った時があった。

二〇二四年に世界遺産として登録された  
「佐渡島の金山」が、その担手であった。記  
録によれば江戸時代初期の元和から寛永年  
間にかけては、金は一年間に四〇〇キロ以  
上採掘されたようで、当時としては世界最  
大級の金山だった。

平成元年(一九八九)、佐渡の金山は休山  
した。それまでに産出した金は七八トン、  
銀は二三〇〇トンと推定されている。

金は鉱石一トンあたり〇・五グラムが採  
算分岐点といわれている。それほど金を得  
ることは大変なことなのだ。

佐渡の金山で採掘現場での最大の問題は  
湧水の排水で、これが登録にあたっての強  
制労働問題へとつながってゆく。

黄金伝説を数々秘めた佐渡の世界遺産は  
訪れた人々に多くの物語を語りかけてくる。

# 奈良国立博物館の「三〇年」とこれから

奈良国立博物館長  
井上洋一  
（いの上 ひとし）

古都に伝わる貴重な文化財を守り、未来に伝えてゆく。博物館は時にタイムカプセルの役目もはたす。そうした奈良博の歩みを俯瞰する。

## 奈良国立博物館の一三〇年

奈良国立博物館（以下、奈良博）〔図1〕は、東京国立博物館に次いで明治二十八（一八九五）年四月二十九日に開館した日本で二番目に古い国立博物館である。この奈良の地に博物館ができるにあたっては、さまざまな背景があったが、その一つにはヨーロッパにおける万国博覧会の存在があった。この国際博覧会に日本政府として正式に参加したのは、明治六年



〔図1〕開館130年職員集合写真。

に開催された「ウィーン万国博覧会」である。こうした博覧会は、当時中央集権的な統一国家を形成しつつあったわが国が国民に自国の歴史・文化を理解させる場として、また国産奨励、国富増進を普及させる場として、積極的に導入された。

その後、こうした博覧会開催の機運は奈良でも高まり、明治七年、奈良の有力者が中心となり設立された半官半民の「奈良博覧会社」による博覧会が会社設立の翌年から明治二十三年まで続けられた。この博覧会は東大寺大仏殿とその回廊を会場とし、正倉院宝物をはじめ南都諸社寺等の貴重な寺宝類が陳列され、多くの人々を集めた。この博覧会によって地元奈良の活性化が図られるとともに、明治維新後の諸制度の刷新によって荒廃・散逸の恐れがあった多くの文化財は貴重な遺産として広く認識されるようになった。こうした状況下、政府による全国的な規模での文化財調査が行われるとともに、東京だけではなく、京都、奈良にも博物館の必要性が説かれ、政府は明治二十二年、東京に帝國博物館（現在の東京国立博物館）、ならびに京都・奈良に帝國京都博物館（現在の京都国立博物館）、帝國奈良博物館（現在の奈良国立博物館）を設立することを決定したのである。

## 時代の荒波を乗り越えて

奈良博は政府による所管の変更に伴い、名称もめまぐるしく変化している。開館から五年後の明治三十三年には、帝國奈良博物館は「奈良皇室博物館」と改称され、昭和二十二（一九四七）年には「国立博物館奈良分館」、昭和二十五年には文化庁の附属機関となり、昭和二十七年に「奈良国立博物館」となっている。因みに、この奈良皇室博物館時代の昭和二十一年の秋に、『正倉院特別展観』（第一回正倉院展）が開催されている。

その後、平成十三（二〇〇一）年、文化庁傘下の国



奈良博の至宝から。国宝・薬師如来坐像。平安時代

奈良博の至宝から。国宝・刺繍釈迦如来説法図。奈良時代または中国・唐



奈良博の至宝から。国宝・辟邪絵 天刑星。平安時代～鎌倉時代

立博物館・美術館は、政府の方針により独立行政法人化を余儀なくされ、奈良博も「独立行政法人国立博物館奈良国立博物館」に名称が変更された。さらに平成十九年四月一日には、東京・奈良文化財研究所を含めた新たな組織として「独立行政法人国立文化財機構」が発足。これに伴い奈良博は「独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館」となり、現在に至っている。

今こそ奈良博は「仏教美術の殿堂」とまで言われるようになってきているが、開館当初は、ほとんど館藏品はなく、展示は帝國博物館や皇室からの借用品、奈良博覧会社が制作した模造品などに頼らざるを得ない状況であった。こうした状況を救ったのが、明治三十年に制定された現在の「文化財保護法」の前身である「古社寺保存法」である。この法律によって、奈良博は奈良の古社寺から多くの優れた文化財の寄託を受けることとなり、奈良博は名品で構成された充実し

た展示館へと変貌を遂げた。しかし、昭和三十年代になると、文化財の保管場所が、明治以来の博物館から寺社独自の収蔵施設建設に伴う現地保管に向かい、寺院からの寄託文化財の返還申し込みが相次ぐようになってきた。こうした中で、奈良博は大きな歴史的転換を迎える。昭和三十三年、石田

茂作館長の下、『仏教美術入門展』が開催され、奈良博を仏教美術専門館とする方針が定まったのである。この展覧会を機に奈良博は従来の名品展示から、仏教美術の鑑賞と研究に資するために仏像・仏画・仏教工芸品などを系統的に展示する方向へと変化し、その方針は基本的に今日まで継承されている。

## 今後に向けて

奈良博はこうした経緯を辿り、開館以来、特に南都諸社寺のご協力をいただきながら仏教美術研究センターとしての役割も十分に踏まえつつ、さまざまな文化財と奈良のもつ歴史・文化的景観の有機的な連携を考えながら活動している。

私たちが取り巻く社会は、急速にその姿を変え、人類の共存と共生を脅かす状況にあります。私たちは、こうした状況の中で「博物館は何ができるのか」という問題に真摯に対峙し、平和で持続可能な成熟した社会形成に貢献しなければならぬと思う。そして多様性・公平性・アクセシビリティ・社会的包摂等を念頭に置きながら真の国際化を踏まえた魅力ある博物館の構築を志向すべきである。それがナショナルセンターとしての奈良博の使命であることも自覚している。その意味でこの機会にいったん立ち止まり、これまでの歴史を振り返ることで奈良博の存在意義を再確認し、将来に向けての新たな一歩を踏み出すために、以下のような「新奈良博宣言」を发出了した。

- ① 豊かな自然・歴史・文化を育んだ「なら」の魅力を広く国内外に発信し、その真価を未来に伝えて行く
- ② 仏教美術研究の拠点となり、地域や世界の人々の学びに貢献する
- ③ 「やさしい」博物館を超えて、誰もが「やさしくなれる」場所となる

この宣言の実現は決して容易なことではないだろう。しかし、私たちは、職員一人ひとりがこの宣言に真摯に向かい合い、これまでの奈良博の伝統を重んじつつ、そこに革新性を採り入れながら多くの方に愛され、親しまれる博物館を目指していきたいと考えている。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。次第である。

## 筆者略歴

一九五六年生まれ。専門は日本考古学、博物館学。國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位取得。一九八五年に東京国立博物館に入り、学芸企画部長などを歴任。二〇一七年に東京国立博物館副館長、二〇二二年四月から現職。日本ユネスコ国内委員会委員、日本博物館協会参与としてさまざまな文化財保護や博物館活動にも参加している。

## 東叡山寛永寺創建四百周年に寄せて

# 天井絵「叡嶽双龍」の完成

創建四百年を迎えた上野の山の古寺にして名刹・寛永寺の根本中堂の天井を飾る双龍図完成までの物語りを日本画の第一人者が語る。

### 浦井正明貫首との出会い

本年、東叡山寛永寺は創建四百周年を迎えました。その記念式典（法要）が、この十月十日に盛大かつ厳肅に執り行われました。私はその席で「叡嶽双龍」と命名された天井絵を奉納させていただきました。しかし、この晴れの場に本来ならば、おられるはずの御方がいらつしやらなかったことは喜びの中にも誠に悲しみの極みでした。その人の御名は、第三十二世東叡山寛永寺貫首・輪王寺門跡門主であらせられた浦井正明先生です。あれはもう三十数年前のことでしょうか。当時、下谷にあった我が家のせまい玄関にひとりの僧がたたずんでおられました。

「寛永寺の浦井と申します。これは寛永寺の境内でとれた銀杏です」

これが浦井先生との初めての対面でした。それから浦井先生との交流の中で、先生のお人柄にふれるにつれ、その偉大さを、ふところの深さを知ることとなりました。

また、浦井先生は芸術・文化にも造詣が深く、高い美意識をお持ちでした。

私の絵を認めて下さっていた浦井先生との語らいは、幸せなひと時でした。別れぎわに交わした握手の際の手のぬくもりは、まさに心のぬくもりそのものであった、と感じております。

### 「叡嶽双龍」への道

二〇二〇年、浦井先生は寛永寺の貫首に御就任されました。この年の十月五日、来る二〇二五年の創建四百周年記念事業として、寛永寺根本中堂の天井絵を描いてほしい、との依頼を正式に受けました。描くのは「龍」です。

これは大変画家冥利に尽きるお申し出なので、喜んでお引き受けいたしました。

ところで、なぜ寺院には天井や襖によく龍が描かれているのだろうか、などと思われている方もおられると思います。

これは龍が仏法を守護する八部衆の神のひとつだからです。八部衆（天龍八部衆）とは「天」「龍」「夜叉」「乾闥婆」「阿修羅」「迦楼羅」「緊那羅」「摩睺羅伽」の八神をいいます。このうち阿修羅が最もなじみ深いかもしれません。「龍」は、すなわち龍神です。龍神は水をつかさど

吡形の龍です。

私は、これに宗教的な意味をもたせたいと考え、浦井先生に相談しましたところ、こういう御返事がかえってまいりました。

「寛永寺の御本尊は、天台宗の宗祖である伝教大師最澄さまが比叡山で修行をされていた時に自ら彫られたと伝えられる秘仏の薬師瑠璃光如来です。先生は吡龍の左手に玉を持たせていますから、阿龍には薬師如来を表わす種字を梵字（サンスクリット語を表わす文字）を書きこんだらいかがでしょうか」

この提案に私も納得。それならば、その文字を浦井先生に書いていただき、これを私がなぞり、最後の一筆を画龍点睛の儀式の際に先生に入れていただく、という約束をいたしました。しかし、この約束は実現しませんでした。周知の通り、浦井先生は三月六日、遷化されてしまったのです。さぞ、心残りであったらう、と拝察いたしております。

### 天井絵の完成へ

天井画の制作の依頼を正式にお受けした翌年、二〇二二年四月二〇日に寛永寺内に設けられた制作場

でアトリエ開き法要が行われました。そこに用意されていたのは寛永十五年（一六三八）根本中堂創建当時のものといわれる檜の天井板でした。その心は「古」と「今」を結ぶことです。そして寛永寺根本中堂の天井は、と言うと縦約六メートル、横約十二メートルもの面積をもっています。したがって完成した天井画は日本では国内最大級の大きさのものとなるわけです。



画龍点睛式における筆者 (9月12日・寛永寺提供)

る神です。日本には木造建築物が多く、寺院にも多く、火災は大敵です。また、農業において水は重要です。そうした防災の意味もあって龍は描かれるのではな



東京藝術大学名誉教授  
手塚雄二  
(てつか ゆうじ)



浦井正明貫首に「叡嶽双龍」の進行状況を説明する筆者 ©平間至



製作中の筆者 ©平間至

制作を開始するにあたっては多くの問題がありました。その古い天井板に直接描くという、かつてないことに挑戦することです。そこでまず、その天井板に合う画材の準備を始めました。

描く龍は日本人の心情にあったもの、という考えから「やまと絵」の手法で描くことにしました。基本的には墨、白土、金、プラチナなどを用いて龍を描いています。

また、その規模の大きさから三人（加来万周、永井健志、松下雅寿）にアシスタントとしてお手伝い頂きました。

### 未来へ

空を舞う二体の龍は浦井正明先生によって「叡嶽双龍」と命名されました。四月二十四日、寛永寺において筆翰点睛式が行われました。この日、私は二体の龍に目を書き入れました。ただ一つだけ九月の画竜点睛の式のため、少し白地の部分を残したのです。

そして阿龍の左手に浦井先生の書かれた梵字を青色の顔料の瑠璃（ラピスラズリ）を用いて書き入れました。この時、私は無我の心境でした。浦井先生は必ず、この御堂の中において私を見守り、助けてくれるだろうと信じていたのです。

創建法要の儀が終わり、二体の龍は天に昇り、守護神として未永く、世の平安を見守ってくださいたいことを思います。

浦井貫首が敬愛してやまなかった寛永寺を創建された慈眼大師天海大僧正は、寛永寺を徳川将軍家だけの寺ではなく、天下万民のための寺であると考えられていた、とうかがっています。そうした思想は、浦井貫首にも伝わっておられました。貫首は浄土へと旅立たれてしまわれました。

今ここに数々の御恩義を賜りました「史脩心院勸學大僧正明法印大和尚」の御霊に深く感謝の意をささげます。



叡嶽双龍図 (寛永寺提供)

いかと思います。龍の天井絵は多くの才能あふれる先達（せんたう）が描いておられますので、私は緊張感をもって龍と取り組むことにいたしました。

構想としては、伽藍守護の神として寺門に立つ金剛力士像、阿形・吡形にちなんで双龍を描くことにしました。口を大きく開いた阿形と口をくっつくひきしめた

# 東京藝術大学大学美術館の新しい 取手収蔵棟と「魅せる収蔵庫」

美術品を展覧会場だけで鑑賞するだけでなく、  
収蔵庫に納められている状態でも鑑賞が可能となった。  
その発想の元となったものは……。

## 取手館と取手収蔵棟について

東京藝術大学大学美術館は、大学の創立以来の教育研究のための参考資料をはじめ、学生が制作した作品を収集、管理、研究する組織として展開してきました。現在はコレクションが三万件強のうち、学生の作品が一万件を超え、件数では三分の一だが筆者の感覚だと容積的には半分以上を占めています。草創期より蓄積し続けるコレクションを保管する中、大学美術館の前身である芸術資料館の収蔵庫容積がひっ迫したため、一九九四年に大学の茨城県取手校地に建築科教授だった



取手収蔵棟 2024竣工 (奥の建物が取手館)

六角鬼丈（一九四一〜二〇一九）の設計による取手館をつくり、主に学生の卒業制作の自画像や優秀な買い上げ作品をそこで保管することになりました。

取手館は、当初二段階に分けた計画の一期工事として位置づけられていました。二期工事では将来に必要とされる展示施設を整備する予定であり、一期工事の建物は二階部分から渡り廊下で連結できるように設計されていました。一階の多目的ホールは、もともとは大型化する傾向にある作品、インスタレーション系の作品などの収蔵施設として計画されていましたが、二期工事の展示施設が完成するまでは展示などにも利用できるように考慮されていました。しかし竣工から数年もたないうちに、収蔵庫に入れられない作品を多目的ホールの可動壁の内側で保管するようになり、可動壁の外側を展示や取手校地での授業に使用するなどその名の通り多目的に活用されてきました。

一期工事から十八年経過した二〇二二年の時点で、収蔵庫が満杯で多目的ホールの三分の一を収蔵スペースとしていました。年々大型化する買い上げ作品により使用できるスペースが足りなくなることが現実でしたので、当初二期工事で予定されていた展示施設ではなく、収蔵施設の増築および多目的ホールを展示施設

として改装する計画が二〇一三年から持ち上がり、紆余曲折の後、二〇二一年からようやく新しい収蔵庫の建設に向けた具体的な作業が開始され、昨年三月に取手収蔵棟が竣工しました。

## 「魅せる収蔵庫」の誕生

現在取手館および取手収蔵棟では、大学が買い上げた学生の卒業・修了制作を約八、〇〇〇件のほか、ガラスや木工、考古、音楽資料、石膏などの標本、写真や複製品約五、〇〇〇件を収蔵しています。これらの収蔵品の一部は他館の展覧会への貸し出しや学内外の調査研究に寄与していますが、多くが活用されずに、目の目を見ずに収蔵庫で出番を待ち続けて数十年、ということが長年の課題でした。そこで、新棟の計画当初から、作品活用・公開の一環として通常は非公開の収蔵庫の中に作品が見学できる「魅せる収蔵庫」が構想されました。二階の収蔵庫の前室を「魅せる収蔵庫」として作品を配架し、前室の両サイドの収蔵庫をのぞき込む窓を設けた構造としました。もともと計画されていた既存棟の二階からの渡り廊下を収蔵棟への入り口とし、新棟二階の「魅せる収蔵庫」へつながる形と

東京藝術大学大学美術館長  
教授  
黒川 廣子  
（くろかわ ひろこ）



しています。設計者ヨコミゾマコトのデザインの見どころとして南側一階の機械室を見せるためにガラス張りとし、それ以外は大きなコンクリートのキューブが聳え立つ建物となりました。その大きなコンクリート壁はすでに映像を投影するスクリーンのような役割を果たし（二〇二五年一月十九日、取手ライオンズクラブ主催の星空観賞会）、今後も建物周辺の芝生の広場でのイベントでの活用も想定されています。さらに将来的に増え続ける買上作品の収蔵のために、取手収蔵棟二階から新たな棟へつなげることを可能とする枠が魅せる収蔵庫の壁に埋め込まれた設計となっています。

本来は、収蔵庫は一般の方が入れない非公開ゾーンなのですが、二階の「魅せる収蔵庫」を公開することにより、なかなか展示する機会が少ない作品の、展覧会とは異なる形での収蔵作品の活用を推進していくことができます。学生や卒業生などが自分たちの作品がどう収蔵されるのか、美術館の収蔵庫で保管することがどういうことなのか、を学ぶ場所としても機能します。また、長年収蔵庫には入りきらない作品を保管するスペースとなっていた多目的ホールが本来の姿に戻り、展示などのイベントができる新たな空間となりました。秋には当館のコレクション展を取手市と共催で開催します（十一月十三日から三十日）。

## 魅せる収蔵庫ガイドツアー

今年の四月十五日（火）より事前予約制とし、取手収蔵棟の二階に設けられた「魅せる収蔵庫」のガイドツアーを一般の方を対象に開催しております。幸いなことに予約受付を開始してすぐに定員に達する事態となり、いわゆる「予約のとれない」ガイドツアーとなつてしまっています。基本的には毎週火曜日（祝日を除く）の午後二回、一回あたり十五名と募集人数が少な



ガイドツアー時の「魅せる収蔵庫」内  
(下中央の大きな作品以外は新旧の自画像)



ガイドツアー時の渡り廊下の入り口  
(扉の周りの枠が取手館の外壁)



のぞき窓から見える作品



「魅せる収蔵庫」内 (右の絵画の下がのぞき窓)

ているのかを学べる機会ともなっています。普通は入ることのできない美術館の「収蔵庫」の前室にあたる部屋でメッシュラックにかかっている絵画などの作品や、窓から収蔵庫内の木枠に入っている彫刻などの作品の保管状況を見ることが可能です。展示室で展示されている状況が晴姿だとすれば、収蔵庫内はそれとは異なる作品の普段の姿とも言えます。今のところ、毎年前室の配架作品を替える予定ですが、今年には日本画、油画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現などの様々な分野と時代の卒業制作を選び、本学の幅広い教育の様子がわかるようにしています。なかでも、卒業制作の課題で描かれた学生たちの自画像がコレクションの特徴の一つで、明治時代から平成時代のものラックにかけています。自画像の買い上げは明治三十一年（一八九八）の本学の前身である東京美術学校の西洋画科からはじまり、明治三十六年（一九〇三）からは同科全員の自画像を買い上げるようになりました。日本画科（日本画専攻）の自画像収集は昭和五十一年（一九七六）以降、彫刻科は昭和六十二年（一九八七）以降、工芸科は平成九年（一九九七）以降（但し、令和二年度入学者分まで）です。現在の学生たちも、日本画・油画・彫刻の各科は自画像と卒業制作の二通りの作品を制作しており、基本的には自画像はすべて収集し、卒業制作は優秀作品が買い上げられています。

ガイドツアーの参加者からは、おかげ様で満足の声も多いですが、もっとたくさん作品を見たかった、もっと見るべきポイントの説明が欲しかったなどの要望もあります。収蔵庫内の作品が、雑然と身近に展示され、キャプションもないことから作品自体をよくみて感じる事ができ、その作者の息づかいまでも感じられた、という感想や、収蔵庫にたどり着くまでの経路と嚴重に管理されている様子が興味深いとの声も寄せられています。今後は魅せる収蔵庫での対話型鑑賞などのイベントを構想しており、さらなる展開を目指してまいりますのでご期待ください。

# 陸前高田からの便り

## 東日本大震災からの 本当の復興をめざして

東日本大震災の大津波によって  
壊滅的な被害を受けた陸前高田市は、  
今、「モノ」から「ココロ」の復興をめざす――。

### 四二〇〇日余の 時の流れの中で

令和四（二〇二二）年十一月五日、中心市街地に東日本大震災で壊滅的被害を受けた「陸前高田市立博物館」と「海と貝のミュージアム」を統合した新しい「陸前高田市立博物館（以下博物館）」が開館しました。あの津波から十一年七月二十五日、実に四、二五七日が経過していました。社会教育施設としての機能に文化観光施設としての機能を加えた博物館としての新たな第一歩でした。

常設展示室の展示資料は八割以上が津波で被災し、修復された資料です。展示のテーマは三陸の海としました。そのストーリーは「陸前高田の海・大地そして、そこに生きる人々の力に出会う」です。震災前の二館の展示と基本理念を受け継ぎながら、海を悪者にならず、その素晴らしさを伝えることを心掛けました。

開館初日、涙を流しながら展示を見学されていた来館者の方から「残してくれてありがとうございます」と頭を下げられました。この時ほど、博物館が市民、来館者に愛されていて、博物館の役割の大切さ



2022年11月に再建された陸前高田市立博物館



子どもたちと博物館をつなぐアカシヨウビン

学校に向きアカシヨウビンの講話と共に展示を行いました。その後、土曜日になると「おらほのアカシヨウビン元気ですか」と子供たちが博物館にやって来るようになりまし。関係者以外立入禁止の収蔵庫ですが、生徒はアカシヨウビンの関係者なので、たびたび特別な再会を許可しました。中には野鳥に興味を持ち、野鳥観察を始める生徒までできました。「おらほのアカシヨウビン」という子供たちの言葉に自分たちのものである喜びや誇らしさを感じ、それが陸前高田の自然を守る力となることを感じました。

この「おらほのアカシヨウビン」の子供たちの一人が、新しい博物館の開館後、アカシヨウビンを見に来てくれました。その子はすでに立派な社会人となり、父になっていました。震災前に父を病で失い、あの津波で母を失ったその子は、陸前高田には良い思い出がないと内陸で暮らしているとのことでした。自分の生まれ育った場所に良い思い出がない。どんなにか辛いことかと心情を察しましたが、彼はこのアカシヨウビンこそが、自分とふるさとをつなぐものであり、再会できたことを喜び、感謝してくれました。そして、これで娘に父のふるさとの話ができると話してくれました。博物館と子供たちをつないでくれたアカシヨウビンは、今も我々をつないでくれていました。彼にとつてアカシヨウビンが「ふるさとのたから」であったことをうれしく思うと同時に、多くの人の手によって残

シヨウビンは、結局掘り起こされ博物館で剥製標本にしました。剥製完成後、小学校に一周間ほど展示することになり、小

すことができましたことに感謝しました。

### 「モノ」から「ココロ」へ。 さらなる「心」の復興をめざす

令和七（二〇二五）年一月二十五日、日本一の所有世帯数（二〇七世帯）を誇る謎の民間信仰「オシラサマ」に焦点をあてた特別展「陸前高田のオシラサマはいま」を開催しました。昭和六十三年（一九八八）年の特別展「陸前高田のオシラサマ」開催時に市内全域を調査してから三十七年が経過し、また、東日本大震災という大きな災害を経てどのように変化したのかを把握するため、新たに実施した調査結果に基づく特別展でした。

開幕当初からオシラサマにまつわる不思議なエピソードや所有者の方のオシラサマを大切にしている様子がSNSで話題となり、表示数五三〇万を超え、いわゆる「バズった」状態になりました。その効果は絶大で特別展の見学者は一〇、〇〇〇人を超え、SNSの投稿を見た北海道から沖縄まで日本全国の方がお供え物のお菓子を持参し来館されました。

地域のたからものを丁寧に調査し、発信することでこれだけの人を陸前高田に呼び込むことができることが証明されたと同時に、地域に伝わる資料には計り知れない魅力が秘められていたことを実感しました。



特別展「陸前高田のオシラサマはいま」

一方、調査によって浮き彫りとなった東日本大震災の影響は、予想をはるかに上回るもので、所有する一〇七世帯のうち十七世帯



陸前高田市立博物館  
副主幹兼主任学芸員  
熊谷賢  
（くまがい・けんじ）

を痛感したことはありませんでした。

震災で途切れたように思われていた陸前高田の歴史が、展示をとおしてずっと続いていたことを改めて感じていただけただけで、新しい博物館が震災前の博物館から大事なものを受け継いだことを実感しました。

### 人々の「ココロ」を守り、 伝えてゆくことの大切さ

平成二十三（二〇一一）年三月十一日のあの津波で市民とともに作り上げてきた博物館が壊滅的被害を受け、その後、新たな博物館の開館を目標に歩んで来ました。それは、博物館には陸前高田の人々が守り伝えてきたモノがあったからです。そして、モノには物語があり、物語には人々のココロがあります。モノと一緒にココロを守り伝えて行くことが博物館の未来への約束であると信じているからです。

博物館の復興がふるさとの人々の心の復興につながっていると感じたできごとがありました。震災前、市内のある小学校で体育館の窓にカワセミの仲間の夏鳥アカシヨウビンが激突し、落鳥したため子供たちが手厚く葬ったという情報が博物館に入りました。アカシヨウビンの復元がふるさとの人々の心の復興につながっていると感じたできごとがありました。震災前、市内のある小学校で体育館の窓にカワセミの仲間の夏鳥アカシヨウビンが激突し、落鳥したため子供たちが手厚く葬ったという情報が博物館に入りました。アカシヨウビンの復元がふるさとの人々の心の復興につながっていると感じたできごとがありました。

### 最後に

東日本大震災で傷ついた町は、博物館の再建を最後に被災した公共施設すべてが再建され、ハード面の復興は終えましたが心の復興は未だ途上にあります。

博物館資料という震災前の陸前高田から受け継いできたものを未来へ繋いでいくことにより、本当の意味での復興がなされるものと確信しております。その復興に向けてこれからも市民とともに歩み続ける博物館としてふるさとのたからものを守り続けてまいりますので、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

### 筆者略歴

- 一九六六年 岩手県陸前高田市に生まれる。
- 一九九五年 陸前高田市立博物館学芸員。
- 二〇〇四年 陸前高田市海と貝のミュージアム学芸員。
- 二〇一一年 陸前高田市立博物館の文化財レスキューを行う。二〇一三年より現職。現在も被災文化財の再生に取り組んでいる。
- 二〇二四年 文化庁長官表彰受賞。専門は動物考古学。

# 古代の音に耳を澄ませる

## 「音楽考古学」の世界

「音楽」と「考古学」。かたちに残らないものを研究する分野と、かたちに残るものを研究する分野、一見すると二つの学問は全く交わることはないように思われるかもしれませんが、その交差点に位置する「音楽考古学」はとても奥深く、ロマン溢れる学問です。

「音楽考古学」を知りたいですか？

「音楽考古学」は、音楽学と考古学という二つの分野にまたがる学際的な研究分野です。音楽考古学が学門分野として登場したのは、一九八〇年代のヨーロッパや、中国を中心とする東アジアでした。日本では「音楽考古学」という言葉そのものがあまり知られていませんが、古代音楽や楽器に関しては戦前から東洋音楽・日本音楽・考古学のそれぞれの分野で「音楽考古学」的研究が行われており、意外にも長い研究の歴史があります。

音楽考古学の手法はこれと決まったものがあるわけではありません。例えば日本では出土した埴輪が持っている琴の形状から実物の琴の構造が研究されていたり、ヨーロッパでは残存する建築構造から当時の音響環境を復元する研究がされていたり、その手法は様々です。

特に私が専門とする中国では、一九七〇年代後半に湖北省曾侯乙墓で中国戦国時代の楽器が埋められたときに近い状態で出土したことを契機に、音楽考古学研究分野は飛躍的に発展し、現在ではその分野を確立しています。

### 「音楽考古学」との出会い 古代楽器研究の魅力



浜松市楽器博物館での編鐘レプリカの音響実験

なんて……音楽考古学にすっかり魅了された私は、中国の「編鐘」という楽器の研究にのめり込みました。

中国の編鐘の研究の他には面白さは、単に資料を見て考えるだけではなく、文字として残されている史料を参照することができるということです。例えば『周禮』という古典史料には、古代の鐘の作り方や大ききの規格、鐘の調律方法まで記されています。記述が難解で解釈に諸説ある状況ではありますが、このような古典史料と比較して、実際に出土した鐘がどうなのか、ということを考えることができる魅力があります。



私が音楽考古学に出会ったのは、大学三年生の時。高校までは音楽に励みオペラやミュージカルの道を志していましたが、縁あって飛び込んだ考古学の世界で出会ったのが「音楽考古学」でした。何千年も前の古代の人々の音楽を覗き見ることができる

中国では出土する土の質が腐りにくく、水が豊富な地域では遺物が水につかった状態で出土することがあります。空気に触れている面積が少ないほど、劣化が進みにくいので、埋められたときに近い姿で見られます。そのため出土する楽器も当時の姿を留めている場合が多く、どのような音を奏でていたのかを検討することができるのです。

当時の人たちはこの楽器の音を聞きながら、何を思ったのか。楽器を作った人はどのような思いでこの楽器を作ったのか。何千年も前の楽器の音を、現代の私たちが聞くことができるかと思うと、ワクワクしませんか？私は編鐘たちを見ていると、色々なことに思いを馳せてつい対話しているような気分になってしまい、会えて嬉しいよ！と話しかけてしまいます（もちろんこっそりと……）。

### 中国の古代楽器「編鐘」の研究 音楽考古学的な研究

「編鐘」は外から打撃を加えて音を発生させる青銅製打楽器の一種で、複数の鐘が一つのセットになったものを「編鐘」といいます。中国では古く紀元前約一〇〇〇年ごろの西周時代から出現し、当時の王朝の祖先祭祀に用いられていたと考えられています。そのため、音を奏するための道具としてだけではなく、祖先祭祀の道具としての性格を持っているというのが大きな特徴です。

「編鐘」の研究は中国の音楽考古学研究の中でも王道

です。出土した楽器は実際に鳴らすことで音高測定が行われ、その測定結果をもとに古代の音階や音楽の復元が試みられています。

例えば、鐘の音色の決め手は何だと思えますか？鐘自体の厚みなのか、重さなのか、青銅の質なのか、内部に特殊な加工をしているのか……実はその答えは未だによく解っていません。

この問いを解明するためには、特定の手法を使うのではなく、様々な角度から切り込む必要があります。私はこの鐘の音色や発生する音を決定づける構造を知ることが、鐘という楽器の役割を解明するうえで重要なことではないかと考え、考古学的なアプローチと、音楽学的なアプローチという二つの視点から、鐘の音色・音の高さ・大きさ・紋様・銘文の違いなどを複合的に

分析することで、古代音楽の復元と音楽が当時の社会で果たした役割の解明を目指しています。

### 考古学的なアプローチとは？

考古学的なアプローチとは、日本国内だけではなく、中国本土をはじめとする世界各地の遺跡や博物館に所蔵されている実物資料やレプリカ資料の調査に赴き、それらの大きさ・重さの計測、フォトグラメトリによる鐘の3Dスキャン、さらにこれまで実施された発掘調査のデータ収集を行い、それらを比較検討することで、鐘の設計や構造の時代的変化について分析を進めていきます。

これらの分析を通して、先行研究では編鐘の設計は出現初期の西周時代（紀元前約一〇〇〇年頃）から確立していたと考えられていましたが、実は春秋時代（紀元前約七〇〇年頃）まで時期が下る可能性があることが明らかになっています。

### 音楽学的なアプローチとは？

音楽学的なアプローチとは、実物資料や、レプリカ資料を、実際に自分自身の手で鐘を叩いてその音を録音し、録音データを元に周波数成分や余韻の長さなどの分析を行い、考古学アプローチと合わせて鐘の構造や設計がどのように音に影響しているかを検討していきます。

最近の分析ではその補助的な調査として、演奏する道具（マレット）の違いによって鐘の音質や音色がどのように変化するのか、という実験を行いました。演奏道具に関しては先行研究が少なく、鐘を叩く道具は木槌であるということが暗黙の了解のようになっており、ほとんど分析されていないのが現状です。

そこで実物資料に対して、軟玉・鹿角・綿糸玉などを含めてさまざまな材質の道具を用いて試した結果、確かに木槌（樅材）が最も余韻が長く、音色がクリアであることが解りました。しかしそれと同時に樅のようない硬い木材であっても、数回青銅の鐘を叩いただけで木槌がへこんでしまうことがわかりました。そこから、もし当時の演奏道具が木槌であったとしても、頻繁に



編鐘に出会った頃の筆者（中国陝西省周公廟にて）



中国陝西省周原遺跡での発掘調査



中国陝西省周原遺跡周辺の景色



陝西省青銅器博物館での資料調査



東京藝術大学大学院音楽研究科  
博士後期課程在学中  
長澤 文彩  
(ながさわ あや)

### 筆者略歴

一九九四年東京都生まれ。駒澤大学文学部歴史学専攻卒業。同大学院人文科学研究科歴史学専攻修士。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程在学中。日本中国考古学会・日本音楽学会会員、東洋音楽学会参事。専門は中国音楽考古学。特に中国殷周時代から春秋戦国時代までの古代楽器「編鐘」の研究。東洋史・中国考古学・音楽学の学会・シンポジウムでの研究発表をはじめ、二〇二二年『史学雑誌』二〇二二年の歴史学界一回顧と展望―（公益財団法人史学会）で中国殷・周・春秋の執筆を担当、映画ドラマえもん「のび太の地球交響曲」（二〇二四年公開）の音楽演出協力で古代楽器の時代考証を行うなど幅広く活動する。

※財団は長澤さんの研究を助成いたしました。

## 役員等のご紹介

当財団の役員等を左記のとおりご紹介いたします。

令和七年十月現在 敬称略/五十音順  
**理事 (九名)**

- 澤 和樹 東京藝術大学 名誉教授・顧問  
副理事長
- 藪内佐斗司 東京藝術大学 名誉教授  
専務理事
- 小宮 浩 当財団 専務理事
- 石井 直 (株) 電通 相談役
- 伊東信一郎 ANAホールディングス(株)  
特別顧問
- 滝 久雄 (株) NKB(株) ぐるなび  
取締役会長・創業者
- 谷川 史郎 (公財) 日本交通文化協会 理事長  
NTTアーバンソリューションズ(株)  
社外取締役
- 西浦 忠輝 (特非) 文化財保存支援機構  
副理事長
- 渡邊 健二 東京藝術大学 名誉教授
- 西巻 茂 税理士
- 横田 尤孝 弁護士
- ◎**評議員 (十八名)**
- 浅見 龍介 東京国立博物館 副館長
- 有吉 伸人 (株) NHKエンタープライズ  
代表取締役社長
- 大杉 栄嗣 大塚オーミ陶業(株)  
代表取締役社長
- 是枝 伸彦 (株) ミロク情報サービス  
代表取締役会長
- 定方 郷 (株) 精養軒 代表取締役社長
- 佐藤 一郎 東北生活文化大学 学長
- 白井 勝也 (株) ヒーローズ 代表取締役社長
- 高橋 明也 東京都美術館 館長

高橋 司 (公財) 鹿島美術財団 理事  
太刀川俊明 (株) 三越伊勢丹 MD統括部  
美術営業部長

- 永井 浩二 野村ホールディングス(株)  
野村證券(株) 取締役会長
- 長井 大地 読売新聞東京本社 事業局総務  
事業戦略センター長  
文化事業部長
- 野間 省伸 (株) 講談社 代表取締役社長
- 日比野克彦 東京藝術大学 学長
- 福田 豊 恩賜上野動物園 園長
- 堀越 礼子 (株) 朝日新聞社 取締役 西日  
本統括/大阪本社代表 文化事業  
エグゼクティブプロデューサー
- 門司健次郎 クラマスタ協会 名誉会長  
(一財) 外務精励会 会長
- 安川 武男 (株) 高島屋 MD本部  
美術部長
- ◎**顧問 (二名)**
- 宮廻 正明 東京藝術大学 名誉教授

## ご寄付をいただきました皆様

◎令和7年6月1日から9月30日まで

敬称略/順不同

- ☆**寄付金**
- ◎**文化財保存修復・芸術研究等助成事業に  
対する寄付**
- ヤフーネット募金(278名様)
- 土肥孝追悼論集刊行会
- 智源寺護持会
- (株) タムラ設計
- (公財) 日本交通文化協会
- (株) 丸和
- (株) ヴィーナス
- (株) ミロク情報サービス
- 東日本遊技機商業協同組合
- 大和証券(株)

○**昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業  
に対する寄付**

○**平安神宮百三十年社殿等保存修復事業に  
対する寄付**

○**文化財サポーターズ(被災文化財復興支  
援事業)に対する寄付**

## お願い

### 《重点助成事業》

(1) **平安神宮百三十年社殿等保存修復事業の  
ための募金**のお願い

平安神宮は平安京の祖神桓武天皇を奉祀する神宮として明治二十八年に創建され、令和七年には御鎮座百三十年の式年を迎えます。

平安神宮百三十年祭として、平成二十二年に国の重要文化財に指定された大極殿をはじめとする建造物を完全な形で後世に引き継ぐべく塗替え工事を行い、更に令和二年に路面電車では日本で初めて重要文化財に指定された車両、通称チンチン電車の維持保存を目的とする記念事業を行っており、令和七年度から令和十二年度まで六年間に渡り社殿等保存修復事業を実施しております。

(2) **昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業  
のための募金**のお願い

大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業などを表象する大礼服であり、現存する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装です。貴重な

歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産として文化的価値が高いものです。

経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和七年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しております。

募金のお振込み手続きは下記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。  
 ※郵便振替の場合、通信欄に「平安神宮」「大礼服」とお書き下さい。

### 銀行振込 ①銀行名 ②口座番号 ③名義

- ①三井住友銀行 上野支店
- ②普通 6615500
- ③(公財) 文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただくと幸いです。

(電話：〇三・五六八五・二三二一)

郵便振替 ①振替番号 ②加入者名

①00160・5・12319

◎**賛助会員ご入会並びにご寄付(前記のご寄付を除く)のお願い**

### 《賛助会員》

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

- 法人正会員 年額(1口) 50万円
- 個人正会員 年額(1口) 1万円
- 維持会員 年額(1口) 10万円

### 《ご寄付》

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。

詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。  
 (電話：〇三・五六八五・二三二一)

### (1) 銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

### (銀行振込)

- 三井住友銀行 上野支店  
普通 6615500
- みずほ銀行 上野支店  
普通 4478576
- 三菱UFJ銀行 上野中央支店  
普通 0796384

### (郵便振替)

00160・5・12319

※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団 ※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただくと幸いです。

### (2) インターネットによるご寄付

- 次の手順によりインターネットから、クレジットカード又はVポイントによるご寄付(募金)を受け付けています。
- ←「YAHOO! JAPAN ネット募金」
- ←「文化・スポーツ」
- ←「文化財保存修復支援募金」
- ←「クレジットカード」又は「Vポイント」を選択
- ←募金

「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。

財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。

### 遺贈寄付相談窓口のお知らせ

当財団はREADYFOR株式会社と連携し、遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。

遺贈や相続に関してご質問やご相談がございます場合は、お気軽に以下の宛先までご連絡下さい。

※レディーフォー遺贈寄付サポート窓口 (<https://izoreadyfor.jp/>) は、遺贈に関するご相談を受ける窓口で、何度でも無料で

ご相談できます。

寄付のご意向や詳細が決まっていない方でもお気軽にご相談下さい。

READYFOR社ではこれまで約2万件の社会活動を支援してきました。その経験を活かし、あなたの想いが込められた大切な財産を、想いとともにする活動へ届けるお手伝いをいたします。

〈お電話でのご相談・資料請求〉

レディーフォー遺贈寄付サポート窓口  
 0120・948・313 (通話料無料)  
 受付時間：平日10時～17時(年末年始を除く)

### (4) 商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。

お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

### ●税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金を

## 助成金の申請に関するお知らせ

(募金)には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせください。

☆☆☆☆

☆☆☆☆  
 ☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。  
 (電話：〇三・五六八五・二三二一)

【申請時期(予定)】  
 例年実施の文化財保護・芸術研究に係る助成事業  
 令和八年一月十日～二月末日

## 今号の表紙

平山郁夫

桂離宮 2004年



2004年 桂離宮  
 清滝川と保津川が合流し、嵐山の渡月橋あたりから桂川と名を変え、桂川は南へと流れ、やがて淀川と合流する。その桂川にかかる桂大

橋のたもとに桂離宮はある。ここは八条宮家の別荘であった。かつてドイツの著名な建築家ブルーノ・タウト(一八八〇～一九三八)をして「美しい。泣きたくなるほどだ」と言わしめた離宮の殿舎は、日本美の粋を集めたものである。

## 編集後記

昔から夏は暑いもの、とされてきました。が、近年の暑さは異常です。この異常が恒常化しないことを願うばかりです。また、今夏は概して東京は雨が少なかったように思えます。一方で線状降水帯が発生し、集中的豪雨となり、大きな被害が生まれます。水のほしい所には雨が降らず、もう結構です、という所にはこれでもかとはかり降りそそぐ、なにやら今の世界を象徴しているようにも思えます。

上野公園の象徴は東叡山寛永寺です。本年創建四〇〇周年を迎えました。この間、江戸、明治、大正、昭和、平成、令和と続いた世の変遷をずっと見てきたわけです。上野の山の古寺に各時代、時代の想いを聞いてみたい気がします。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)

二〇二五年 秋号 通巻第一〇九号

★令和七年十月二十八日発行

★編集発行/公益財団法人文化財保護・

芸術研究助成財団 事務局◎

〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五十

電話(〇三)五六八五一一三一一

FAX(〇三)五六八五一一三二五

URL:<https://www.bunkazai.or.jp/>

E-mail:[jimukyoku@bunkazai.or.jp](mailto:jimukyoku@bunkazai.or.jp)

★印刷 エイ・エス・アドバンス株式会社